

令和3（2021）年度 資源評価調査報告書

種名	ヒメジ	対象水域	日本海西部
都道府県名	島根県	担当機関名	島根県水産技術センター

1. 調査の概要

島根県内全魚市場の月別・漁業種別水揚量を集計した（属人統計）。

2. 漁業の概要

島根県では、全漁獲量の9割程度が小型底びき網漁業（以下、小底）により漁獲される（図1、表1）。小底の休漁期（6～8月）は漁獲がなく主漁期は9～12月である（図2）。2007年以降の漁獲量は2008年まで20トン程度で推移した後、2009年以降は長期的に減少傾向にあり、2020年の漁獲量は1.3トンであった。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：北海道以南の日本海で水深35～160mの沿岸の砂泥底に分布（波戸岡・土居内 2013）。稚魚は全長35～60mmで表層生活から底生生活に移行し、着底した稚魚は20～80mの水深帯で見られる（石田 1986）。
- (2) 年齢・成長：満1歳で尾叉長11.0cm、満2歳で15.5cm、満3歳で18.6cmに成長する（石田 1986）。
- (3) 成熟・産卵：日本海南西海域では雌雄とも全長9cm程度から成熟し、産卵期は5～9月と比較的長く、産卵盛期は6～7月と考えられている（石田 1986）。産卵場は水深120～130m以浅の沿岸域に存在すると推定されている（河野 2008）。
- (4) 被捕食関係：東シナ海産本種は主に魚類、エビ類、ヨコエビ類を捕食する（山田ほか 2007）。また、福井県北部沿岸産本種の幼魚は、キクロプス類、端脚類、エビ類、ヤドカリを捕食する（橋本ほか 1985）。表層生活期の稚魚はシイラに捕食される（児島 1961）。

4. 資源状態

現段階で資源状態を推定できる有効な資源量指標値はない。本種の漁獲の大半を占める小底の1日あたりの漁獲量は得られているが、漁獲努力量として全水揚日数から計算された値であるため、資源状態を適確に反映できるよう、適切な努力量の情報を収集する必要がある。

5. 資源回復などに関するコメント

資源回復のための取り組みは行われていない。漁獲物の情報（体長組成、類似種の混じり状況等）が不足しているため、今後調査による情報収集が必要である。

6. 引用文献

橋本博明・福浦吉行・郷 秋雄 (1985) 福井県北部沿岸の底生性魚類 II. マエソ、ヒメジおよび異体類3種の食性. 広島大学生物学部紀要, **24**, 49-55.

波戸岡・土居内 龍 (2013) ヒメジ科. 「日本産魚類検索 全種の検索 第三版」中坊徹次編, 東海大学出版会, 秦野, 976-982.

石田健次 (1986) 日本海南海域におけるヒメジの底生生活期について. 日本水産学会誌, **52**, 215-221.

河野光久 (2008) 日本海南海域におけるヒメジ浮遊期の稚仔の出現と分布. 山口県水産研究センター研究報告, **6**, 45-48.

児島俊平 (1961) 日本海西部におけるシイラ漁況の研究－Ⅲ. シイラの食餌内容について. 日本水産学会誌, **27**, 625-629.

山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次 (2007) 「東シナ海・黄海の魚類誌」. 東海大学出版会, 秦野, lxxiii+1262pp.

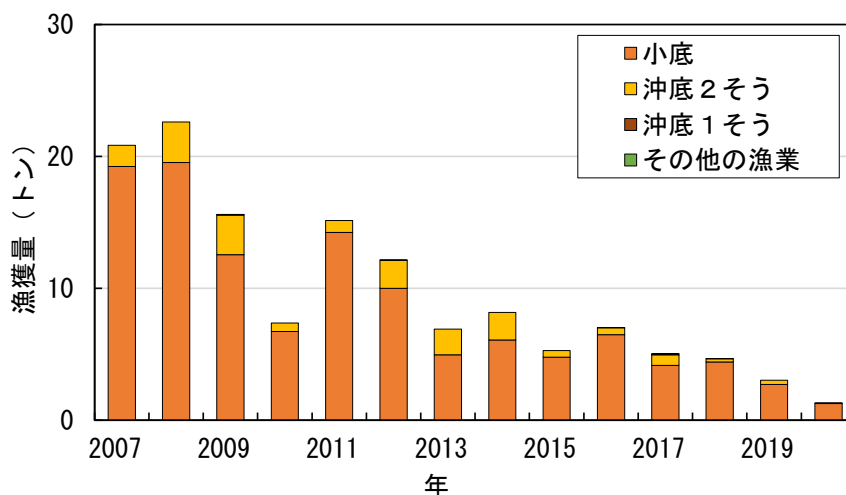


図1. ヒメジの漁業種類別漁獲量（島根県）.

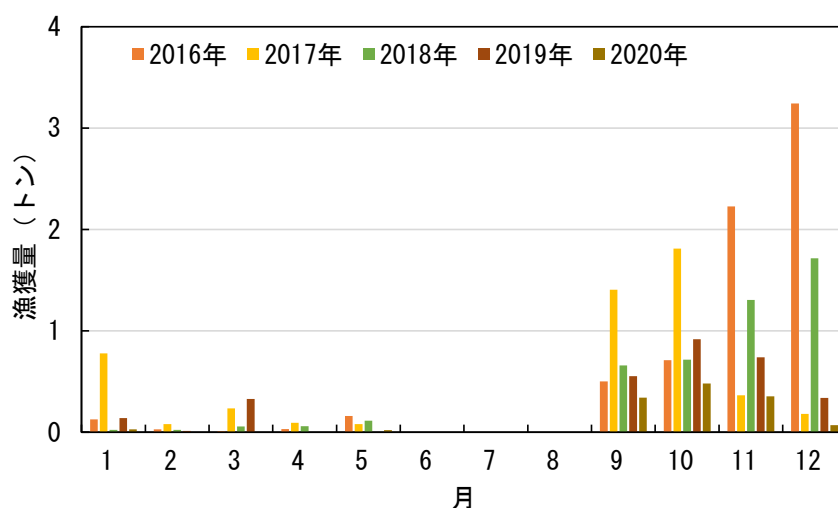


図2. ヒメジの月別漁獲量（2016年～2020年、島根県）。

表1. ヒメジの漁業種類別漁獲量（島根県）

年	漁業種類				合計
	小底	沖底2そう	沖底1そう	その他の漁業	
2007	19,242	1,606			20,848
2008	19,542	3,080			22,622
2009	12,555	3,013	5	14	15,587
2010	6,727	643			7,370
2011	14,240	896			15,136
2012	10,002	2,130	5		12,137
2013	4,950	1,957			6,907
2014	6,074	2,101			8,175
2015	4,788	497			5,285
2016	6,492	516	27		7,035
2017	4,146	813	62	5	5,026
2018	4,422	236		14	4,672
2019	2,708	317			3,025
2020	1,267	20		5	1,292

単位：kg